

姫小川古墳確認調査 現地説明会資料

安城市教育委員会文化振興課



姫小川古墳の墳丘復原図

1 調査目的 古墳の形状を把握する（墳丘崩落防止工事のため）

2 調査内容 試掘区（トレンチ）4か所（計 85 m²）の墳丘範囲確認調査

3 調査結果

①古墳の規模・形状がこれまでより正確に確認できました！

姫小川古墳は、平成 19～21 年度にかけての発掘調査により、墳丘長 65m の前方後円墳に復元されていました。今回、新たに後円部斜面、くびれ部・前方部側面の形状を把握することができました。

②古墳構築に関する古墳時代の人の知恵がわかりました！

トレンチ 2～4 では墳丘裾部と碧海台地の基盤層（地山）の境目に、土師器（古墳時代の土器）の小破片を含む淡黒褐色粘質土が確認されました。そして、この上には、墳丘盛土が施されています。これは、自然地形を利用しながら墳丘を作り、かつ古墳時代の人が古墳の大きさを決めてから、墳丘に土を盛った証拠となるものと考えられます。

③初めて埴輪が発見されました！

姫小川古墳は従来、埴輪を伴わない古墳と考えられていました。しかし、トレンチ 3 のくびれ部斜面で壺形埴輪ないし円筒埴輪の破片が見つかりました。安城市内では東町獅子塚古墳に次いで 2 例目となり、姫小川古墳の築造時期を考える上で重要な発見です。

4 今後の課題

①姫小川古墳に段築はあるのか？

姫小川古墳は自然地形を削り出し、その上には石を葺かずに土を盛った古墳になります。後円部の調査では傾斜角度の急な部分と緩い部分が確認でき、古墳の構築は一定の作業面を確保しながら行われたものと考えられます。ただし、平坦面がないのも事実で、墳丘の緩急の評価については今後の検討が必要です。

②姫小川古墳の被葬者は誰か？

姫小川古墳に葬られた人物は特定できません。しかし、古墳時代前期中頃において矢作川最大級の前方後円墳を築くことができたことから推測すれば、二子古墳に後続する地域最有力の人物のお墓と考えられます。桜井古墳群が「三河国、ここにはじまる」と評価されるのもあながち間違いではないでしょう。

19.000m
18.000m
17.000m
16.000m
15.000m
14.000m
13.000m
12.000m
11.000m
10.000m
9.000m



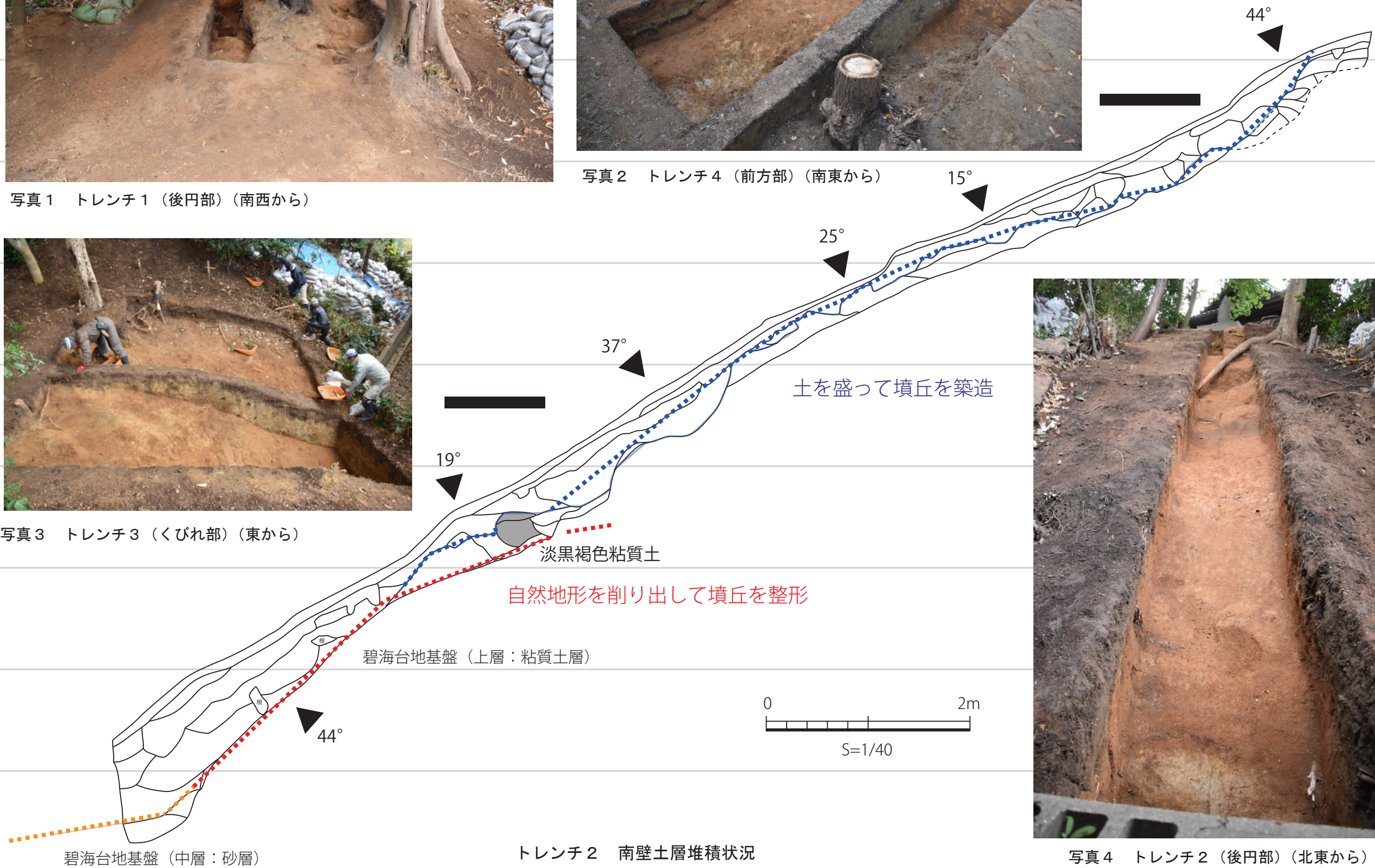
写真1 トレンチ1（後円部）（南西から）



写真2 トレンチ4（前方部）（南東から）



写真3 トレンチ3（くびれ部）（東から）



トレンチ2 南壁土層堆積状況



写真4 トレンチ2（後円部）（北東から）